

大豆特報



今後の気象は高温・少雨が予想されます。大豆は開花期を迎えます。積極的に畦間かん水を行い、落花や落莢を防ぎ、しっかり収量・品質を確保しましょう。

1 病害虫防除（えんれいのそら、シュウレイ）

【基本防除】病害虫の発生状況や大豆の生育にあわせて、適期に実施しましょう。

防除時期		1回目（8月6日～11日頃） 莢伸長期	2回（8月20日～25日頃） 子実肥大期
対象病害虫		紫斑病、食葉害虫、カメムシ類	
粉剤 体系	薬剤名	トライトレボン粉剤DL	トライトレボン粉剤DL
	10a当たり 散布量	3kg（収穫14日前まで）	3kg（収穫14日前まで）
液剤体系 （ラジヘリ防 除を除く）	薬剤名	プランダム乳剤25＋スタークル液剤10	トライフロアブル＋トレボンEW
	10a当たり 散布量	3,000～5,000倍/100～300ℓ （開花後～収穫7日前まで） ＋ 1,000倍/100～300ℓ （収穫7日前まで）	1,000倍/100～300ℓ （収穫14日前まで） ＋ 1,000倍/100～300ℓ （収穫14日前まで）

- ・ 風が穏やかな時に散布し、周辺へ飛散しないように注意しましょう。
 - ・ ラジヘリによる基本防除は、1回目が8月5日～7日頃、2回目が8月19日～21日頃です。
- ※オオツルの防除は、えんれいのそらやシュウレイより、散布時期が1週間程度遅くなります。

【随時防除】高温少雨傾向のためハダニの発生に注意し、発見次第、速やかに防除しましょう。

対象病害虫	防除時期	薬剤名	10a当たり散布量	使用回数
ハダニ類	8月上旬～ 9月上旬	マラソン粉剤3	3kg （収穫7日前まで）	粉剤、乳剤 あわせて 3回以内
コガネムシ類	7月	マラソン乳剤	2,000倍/100～300ℓ （収穫7日前まで）	
ウコンメイガ （ハマキムシ）	7月下旬～ 8月上旬	ダントツH粉剤DL	4kg （収穫7日前まで）	2回以内
		プレバソンフロアブル5	4,000倍/100～300ℓ （収穫7日前まで） 16～32倍/0.8ℓ：無人航空機 （収穫7日前まで）	
ハスモンヨトウ アブラムシ類	8月上旬～下旬	トレボン粉剤DL	4kg （収穫14日前まで）	2回以内
カメムシ類 フタスジヒメハムシ ダイズサヤタマバエ	9月上旬	スタークル液剤10	1,000倍/100～300ℓ （収穫7日前まで）	2回以内
			8倍/0.8ℓ：無人航空機 （収穫7日前まで）	
葉焼病	7月下旬	Zボルドー※	500倍/100～300ℓ	—
		フェスティバルC水和剤※	600倍/100～300ℓ （収穫7日前まで）	3回以内

※ZボルドーやフェスティバルC水和剤は周辺水稻（特に種子）に飛散しないように注意してください。



上：ハダニによる被害
下：ハダニ

【裏面あり】

2. 雑草対策 ～雑草の種子ができる前に除草を徹底しましょう～

- ・非選択性除草剤は、大豆や周辺作物にかからないよう十分注意して下さい。
- ・風が穏やかな時に散布し、周辺へ飛散しないように注意しましょう。

対象 雑草	除草剤名	10a当たり薬量 (希釈水量)	使用 回数	使用方法	使用時期
イネ科 雑草	ポルトフロアブル	200～300ml (50～100ℓ)	2回以内	全面散布	イネ科雑草3～10葉期 (スズメカサネを除く) 但し、収穫30日前まで
広葉 雑草	大豆バサグラン液剤 ※1	300～500ml (100ℓ)	1回	畦間処理 ※2	大豆生育期 (雑草の生育初期～6葉期) 但し、収穫45日前まで
		100～150ml (100ℓ)		全面散布	大豆2葉期～ <u>開花前</u> (雑草の生育初期～6葉期) 但し、収穫45日前まで
一年生 雑草	バスタ液剤	300～500ml (100～150ℓ)	バスタと ザクサを あわせて 3回以内	畦間処理 ※2	雑草生育期 但し、収穫28日前まで
	ザクサ液剤	300～500ml (100～150ℓ)		畦間処理 ※2	雑草生育期 但し、収穫28日前まで

※1 大豆バサグラン液剤は、使用時期の違いにより「10a 当たり薬量」や「散布方法（畦間処理・全面散布）」が異なるので、散布前に確認しましょう。

※2 畦間処理は、つり下げノズルを使用し、大豆の本葉にかからないよう注意しましょう。

3. 畦間かん水 ～落花・落莢を回避し、青立ち予防のため畦間かん水を実施しましょう～

- 開花期頃から9月上旬まで、晴天日が3日以上続いたら、降雨に頼らず積極的に畦間かん水を行って下さい。
- 畦間かん水は、短時間で行い、ほ場全体に水が行き渡ったら、速やかに落水しましょう。



4. 熱中症対策について

農作業中の熱中症予防のポイント

- 日中の気温の高い時間帯を外し、作業を行いましょう。
- 帽子・熱を逃しやすい衣服の着用や保冷剤等により体を冷やしましょう。
- のどが渇く前に、こまめに水分・塩分を補給しましょう。
- 作業はできるだけ複数で行い、時間を決めて体調確認を行いましょう。



20分おきにコップ
1～2杯の水分補給



熱中症対策アイテム
を活用